

日時 令和7年2月10日（月）10:30～12:00

場所 鹿児島市立図書館 2階 AVホール

出席者 図書館協議会委員7名、事務局7名

### 【会次第】

- 1 開会
- 2 市立図書館長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 令和6年度の主な活動報告について
  - (2) 令和6年度利用者アンケート調査結果について（報告）
- 4 その他
- 5 閉会

### 【議事概要】

#### 議事（1） 令和6年度の主な活動報告について

委員

電子図書館の学校連携について、学校現場での取り組みや手応えをお聞かせ願いたい。

委員

7月に入って、子供たちが利用できるようにしている。ただ、やはり子どもたちは本を手にとって読む方が多いように思う。また、学校図書館司書が非常に熱心で様々な取り組みをしており、子どもたちも図書館に行って借りることを楽しみにしており、学校図書館で借りている子が多いように思う。

今、子どもたちの登下校時の荷物が重いということが聞かれる。電子図書のうち学校にある本で、例えばシリーズで読みたいものなどを持ち帰らないことで、負担の軽減がされるのではと考えている。今後、そういう観点も含めて、子供たちに積極的な紹介をしていきたいと思う。

また、学校図書館司書も学校の本を借りて欲しいという要望を持っており、そのあたりの兼ね合いが難しくなってくると思う。学校図書館司書も交えて、電子図書の本の紹介をしていけば、両方うまくいくことに繋がるのではないか。

委員

読み放題で集団読書が可能になるので、そのような使い方を今後検討していきたい。また、朝読書の時間があるので、そこで読み放題を利用しているかと思う。

本校でも学校図書館司書が大変熱心で、生徒を巻き込んで様々な活動している。本校の図書館の貸し出しを優先して増やしたいという思いがどうしてもある。

読み放題のサービスについて、市立図書館の方から学校の方に、このような使い方ができるというような例を発信していただければ、さらに利用が増えるかと思う。

委員

7月に生徒へIDを配布し、12月に一斉読書を企画して実施した。いま読み放題で読めるものが小学

校・中学校向けの内容なので心配していたが、意外と生徒は読んでいた。小・中学校で読んだものや懐かしいのがあったようで、「面白かったよ」と言ってくれる生徒もいた。そのあとの様子も見てみたが、授業が終わった後などにタブレットを開いて読み放題の続きを読んでいる生徒もいた。タブレットの活用という意味でもいいきっかけになったかと思う。

一斉に同じ時間でタブレットを使うので、通信環境を心配していたが、本校の場合は問題なかった。学校によっては環境が整っていないところがあるという話も聞いているので、ハード面を整備していくと、電子図書館がもっと学校内で活用されるように思う。

委員

事務局から説明があったことで、各委員からご意見はあるか。

委員

各学校からの電子図書館へのアクセス数は図書館で把握をしているのか。

事務局

学校連携用のIDで何冊貸し出した、ということはわかる。7月以降、8千回から9千回ほど貸出が増えている。読み放題は、7月は初まったばかりということで20万回、そのあと、8月の夏休み期間でも4万件ほど閲覧があった。9月は2学期がはじまったことから13万回ほどと、かなり使われている。

図書館からは回数でしか状況の把握ができないので、現場がどのような雰囲気であるのか、今回教えていただいた。

委員

フィードバックはないのか。それというのが、学校図書館司書が、学校の本はそこまで借りられていないが、電子図書が借りられているのだなというふうになるとよいのではないか。フィードバックの仕方が難しいかもしれないが。

委員

読み放題にできる本にはどのような決まりがあるのか。

事務局

「名作100点」のように、読み放題のものがパックになっている商品がある。こちらからこの本を読み放題にして欲しいという形ではなく、商品として出てきているパックの中から選ぶという形である。

委員

例えば、伝統文化を冊子にまとめようというような授業がある。そのときには担任が、伝統文化に関わるシリーズの本を図書館からたくさん借りてきて、子どもたちがその中から自分の気に入ったものを選ぶのだが、重なることもある。そのような学習で使うものが読み放題パックになっていると、わざわざ担任が図書館からたくさん借りてこなくても、また、子どもたちが同じものを選んでも、必要な記事を抜き出したりできる。そういうものがあると、利用数が増えると思う。

## 事務局

一斉の学習などで使えるようなものがパック商品としてあれば、できる限り入れたい。

## 委員

小学校はiPad、中学校はノートパソコンのような端末を使っている。iPadはとても読みやすく、子どももしばしば見ているが、中学校の方は年季のいった端末を使っている。端末によって向き不向きなどもあると思うので、できれば、iPadに統一してもらえたらもっと子どもたちも読んでくれるかと思う。

また、市立図書館としては、今後、電子書籍と紙媒体の書籍の割合をどのようにしていきたいと考えているのか。

## 事務局

商品として電子書籍になる書籍というものが、比率や構成を考えることができるほど自由に出てきていない状態だ。今からさらに増えてくるとは思うが、図書館向けに出ている電子書籍はまだ限られている。しかも、出てくる電子書籍は基本的に1人借りると他の人は借りられないものである。

電子図書館は図書館まで来る必要がなく、図書館が閉まっても夜でも使うことができるため、図書館利用のハードルを低くするための手段として使うことができている。現在はその段階だと考えている。電子書籍の利用が普及してきて、商品も増えてくれば、そのときになってはじめて構成をどうするかということが考えられると思う。

## 委員

小学校がiPadなのは小学生にとって感覚的に操作しやすいものだからで、一方、中学校がキーボードつきなのはキーボードを打たせるためだからではないかと思われる。

タブレットで読書をするということについて1つ懸念がある。スマホやタブレットは目への影響があるように思う。最近、中学生の視力がだんだん落ちてきているという話がある。本格的にタブレットで読書をさせるのであれば、目に負担のないものを入れたいといけなと思うが、今のところ授業用に買っているのだから、そういうことは難しいのかなとも思う。

## 委員

保護者向けに学校教育に関するアンケートをとった際、子供たちがスマホなどを使う時間を制限しなさいと言いながら、タブレットで宿題を出すのはいかがなものかという意見があった。

目にやさしい端末にしたり、あるいは紙の本を読むのとタブレットで読むのとで目への負担はあまり差がないなどといった研究成果があったりすれば、もっと保護者へすすめやすくなるように思う。

## 委員

鹿児島市の教育委員会からも一人会議のメンバーに入ってもらわないといけなように思った。

紙媒体から電子書籍への過渡期なので、市立図書館もこれから方向性を決めていくことかと思う。

説明について意見がある。

天文館図書館の企画は、図書館の特色をよく引き出している。ますます特色が出てきている。ワークショップはもう少し人が増えてもいいのではと思った。

市立図書館の方も、とてもさまざまな取り組みをしていて素晴らしいと思う一方で、従来の図書館業

務をこなしながら、これだけの企画やイベントをこなしているのは、人数や予算の点で懸念することがないのかと思った。

アンケート結果について、アンケートは7割いけば成功だと思っている。満足度のうち、とくにイベントと企画展示が低くて驚いた。企画類はもう少し評価されているのではないかという思いがある。

## 議事（２） 令和6年度利用者アンケート調査結果について

委員

事務局から説明があったが、委員の皆様から何かないか。

委員

市立図書館は利用者の滞在時間が長いのかと思っていたら案外と短くて、天文館図書館はすぐに帰るのかと思っていたら長く滞在している。市立図書館の来館目的は「本を借りる・返す」が多かったので、本を借りて返されたら早く帰られるのかなと思った。それに対して天文館図書館は、学習や仕事などの滞在型の雰囲気があるように思った。

鹿児島市立図書館は電子図書館に取り組んでいるのがとても画期的だと思うが、利用頻度は「試しに数回利用したのみ」という回答が多い。まだまだ紙媒体の本が使われているということがわかった。

また、図書資料の満足度について、選書が市民のニーズをそれなりにかなえており、満足されている結果が出ているものかと思う。

レファレンスサービスは50%程度だったが、そもそも、資料の調査相談のレファレンスという言葉が認識されていないと思う。レファレンスは、解決の糸口を図書館が提供するということが本来の意味なのだが、現実には、解決の糸口ではなくて回答を求めているのではないかと思う。その理解の誤差がアンケートに出てくるのではないか。さらに深く言うと、自分はこれだけ調べたが、それ以外に関連する本はありますか、ということが大事なのではないか。

委員

不登校の話題を多く聞く。例えば、天文館図書館で、朝から学習をしに来ている生徒や児童はいるか。サンエールかごしまには何名かそういう生徒がいる。

事務局

制服を着てないなければ分からないということもあるが、今日は学校があるはずなのに図書館に来ている、という子はそこまで見かけたことはない。

事務局

市立図書館でも定期的に巡回警備を行っているが、制服を着た児童がいるといった報告はこれまでは受けていない。

事務局

天文館図書館では、平日の日中で制服を着ている子はあまり見かけない。制服ではなく私服で来ている、学生ぐらいの年代の子が使っていることはなくはない。どのような理由でいるのかというところまではわからないので、様子を見るに努めている。

#### 委員

今、図書館は、心の居場所と言われている。特に学校図書館は、保健室とは違った児童生徒の心の居場所だ。例えば、教室では浮いているが、図書館だったら学年を超えて仲良くなれるということもある。不登校の子どもたちだけが対象ではない。公共図書館ではよく、「学校に行きたくない子は図書館に来ていいんだよ」ということを言っていることが話題になる。様々な是非はあると思うが、流れとしては、図書館は子どもから大人まで心の居場所だ、というものがある。

#### 委員

第3の居場所というものも最近出てきている。図書館もそういった場所になりうる。学校サイドからすれば、その状況の把握はしたいのではと思う。

#### 委員

学校現場では、子供が授業中に学校図書館に来るとさりげなく図書館司書がフォローして、担任の先生に「〇〇さんが図書館に来てましたよ」というような報告はすると思う。今の時代は、「〇〇さん、どうして図書館に行ったんだ」ということはなく、先生方も共通理解を持ちながら接していると思う。

#### 委員

施設・設備への要望が意外と多いなと思った。なかなか予算面が大変だとは思いますが、このアンケート結果から、すぐでなくても、少しずつでも改善してくれたらいいなと思う。中には、天文館図書館の消しゴムのかすを捨てる場所についての要望もある。ゴミ箱を設置すると、他の物を捨てられるということもある。ちょっとしたことではあるが、やはり利用者としては気になるのかなと思う。

#### 委員

消しゴムのかすについて、大学図書館などでは図書館サポーターたちが紙のちょっとしたものを作って机の上に置いている。いろいろなやり方がある。

#### 委員

市立図書館のホームページをスマホで見ても、電子図書館のアイコンが目立たない。下の方の開館情報が大きく書いてあるところへ、電子図書館も並べてみるのはどうか。パッと見たときに、なんだろうと思って、興味を持つ人が増えるのでは。

#### 委員

ホームページはもう少し工夫をしていただけたらありがたい。市立図書館に限らず、他のホームページでも、肝心の情報を探すのに手間取るもどかしさがある。運営する側と利用する側では目線が違うと思うが、そこを工夫してもらえたらさらに使いやすくなると思う。

#### 委員

開館時間について、市立図書館では開館時間を早くしてほしい、天文館図書館では開館時間を長くして欲しいという意見があった。現在、開館時間が両館で少し異なっている。市立図書館は夜9時まで、天文館図書館は夜8時までと、1時間の差があるのはなぜか。また、来館時間のアンケート結果について、市立図書館は6時から9時というくりで出しているが、8時から9時までの1時間でどのくらい

の利用があるのか分かれれば教えていただきたい。

事務局

2つの図書館の開館時間について、天文館図書館の開館時間はセンテラス天文館の開館時間に合わせられており、午前10時から午後8時までとなっている。また、市立図書館の8時から9時までの来館者数については、8時から9時ではなく7時から9時の来館者数になるが、概ね100人から130人ほどである。そのため、8時から9時に来館する方は、そのうちのさらに少ない割合ということになる。

委員

図書館でのイベント、講座・おはなし会などについて、「どちらともいえない」という回答が多かったのが残念だと思う。

天文館図書館での、「ワークショップやってみる講座」がとてもよいと思った。やる側を指導・育成するという目的がいい。市立図書館でも天文館図書館でも、おはなし会をする人たちはベテランばかりではなく、上手にできないことも多かろうと思う。プロみたいな人たちがいて、上手にやってくれることを期待してこられたりするのかなと思う。おはなし会や講座をする人たちに、プログラムの立て方や、このような場合はこのような対応をした方がよいなど、育成するような講座をしても、来る方が多いのではと思う。講座やイベントなどを自分もやってみたい、自分たちのグループでチャレンジしてみよう、という方も増えるのではないかなと思う。

委員

利用者カードにも、市立図書館や電子図書館の二次元コードを付けてもいいのでは。ブックマークを登録している人もいると思うが、よりアクセスしやすく、利用がしやすくなるのではないかな。

#### 4 その他

委員

予定していた議事をすべて終了した。各委員から一言どうぞ。

委員

より利用者が増えることを祈念している。

委員

両館とも、素晴らしいことをしていると思う。満足度の目標を80%というかなりハードルが高いところに設定しているので、難しいと思うが、素晴らしいなと感じた。

委員

紙の本と電子の本の、住み分けや利用の方法が難しいと改めて感じた。本校ではどちらかといえば学校図書館の貸出冊数が年々減っており、では生徒が本を読まないのかということ、自分で本を買っている子もいたりなど、学校図書館がすべてではない。なかなか、読書とはどういうことなのだろう、ということを考えさせられた。

また、電子図書館の活用も考えていきたいと思う。

## 委員

先ほど不登校の話があったが、実は自分の子どもも不登校だった。卒業の文集を書く際に、本人に書きたいことがなかった。図書館のことを書けばいいのではと言ったところ、すぐに文集を書き上げることができた。内容は、学校に行きたくなくても、自分が趣味で読んでいる本の新刊が入ると図書館に行きたかったというようなものだった。学校の司書の先生もすごくやさしかった。フレンドシップに入っていたこともあり、配慮してくれていて、とても行きやすかったようだ。こんなに素敵な思い出ができてよかったと思った。司書の先生からも、とてもうれしかったと言われたことを思い出した。

図書館は本や情報を提供する場所など、様々なことがあるが、やはり図書館というその場所がよい。物理的な場所だけではなく、心の場所であって欲しい。実際そうなので、よいことだと思う。本当に応援している。

## 委員

不登校に対する要望が増えている。去年、不登校に対する研修会を実施したところ、離島や地方からも大変多くの方が参加していた。保護者だけでなく先生も含めて、興味があるというより、実際そこに不登校の子どもがいる。

本の貸し借りだけでなく、新しい居場所としても、図書館の活用方法はものすごく大きくなってきているのではないと思う。学校には行けないけれど、図書館には行けるという方が、まだ少し気持ちはある。学校の先生の立場からしても、学校には来ていないけど、図書館にはよく行っているらしいという情報があるとよいと思う。

教育委員会もこの場に入れたいといけないう話もしたが、学びの場というネットワークをうまく活用し、鹿児島市が先進的に取り組んでいけたらいいと思う。

## 事務局

図書館はややもすると本の貸し出しが中心だが、サードプレイスとしての居心地の良い場所、というところ意識しながらやっていかなければならない。学校あるいは教育委員会とうまく連携しながら、どのようにしていく必要があるのかという新しい課題をいただいたように思う。

満足度については、やはりある程度高いハードルを設定する必要があると感じている。それを目指して努力するということも必要だ。低い目標を設定したらあっという間に達成してしまい、それで自己満足するのも良くはないと思う。

今、このようなデジタル社会でありながら、紙媒体を持つという意味について、改めて認識させてもらった。特に小・中学校ぐらいの子どもたちが紙媒体の実物に触れるという点や、実際に図書館という場に足を運ぶ体験などについてである。そういうところに、子供たちの成長の種があるのではないかということを感じた。その一方で、電子図書の役割も増えてくると思う。

ただし、問題点として予算がある。また、そのコンテンツを提供する業界の問題もある。加えて、誰もがデジタルを100%使いこなすことができるわけではないので、利用者のスキルなども勘案しながら運営していく必要があるように思う。

今日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今日のご意見を共有しながら、図書館の向上に努めて参りたい。

## 会議終了